1 月 17 日で阪神淡路大震災から 26 年目を迎えます。6434 名が犠牲になり、多くの人が命を、また家族や友人、家さえも失いました。
今では被害にあった地域では復興が進み、新しいビルや家が建ち、その跡がどんどんなくなり、人々の記憶もうすれていってしまいがちです。
世の中には自分の力で何とかなることと、そうでないことがあります。交通安全や病気に関しては、普段から気を付け、注意をすることでその多くは防ぐことができます。しかし、地震や大雨、台風などの災害、火事などは被害を避けられないことの方が多いようです。
それなら、どうせ避けられないなら考えても無駄やん。人はいつかは死ぬんやから、考えてもしょうがない、と考えるのをあきらめる人もいます。または、自分には関係がないこと、遠い世界で起こったこととしてピンとこない人も居るかも知れません。
26 年前に亡くなった人は、運が悪かった遠い世界の人々なのでしょうか。
亡くなった人の中には、皆さんと同じ小学生の人もたくさんいます。みなさんと同じようにサッカー選手になりたいなあ、お店を開きたいなあと夢を持って生きていたはずです。または今日一緒に遊ぼうね、今度の日曜日に家族で出かけようね、と約束していた人もいたでしょう。
しかし、朝午前 5 時 46 分、多くの人がまだ寝ていた時刻に、震度 7 を超える大地震に一瞬に命を奪われたのです。命だけではありません、将来の夢も楽しみにしていた約束もなくなってしまったのです。
では、何も残らないのでしょうか。
その人たちは、多くのことを皆さんを含めて、生き残った人々や未来の人たちに残してくれたものと思います。
地震が起こったら、家が倒れないように支えるための鉄骨を入れた方がいいよ、タンスも倒れるからつっぱり君で支えといたら大丈夫だよ。水や電気も止まるから飲み水や電池を普段から用意しといてね、家族と離れ離れになるから、待ち合わせ場所を決めてた方がいいよ。ケンカしていた友達とは謝ることもできなくなるから、今のうちに仲直りしといた方がいいよ・・・・。
今、私たちができることは、悲しい出来事から学ぶことです。自分だったら・・・と捉えて、心の準備と必要な物を用意しておくことです。これを防災と言っています。
阪神淡路大震災だけでなく、多くの人の命が犠牲になったできごとから、学び、考え、行動に移すことが明日の自分、未来の自分を大切にすることに繋がると思っています。
これまででも話をしてきましたが、挨拶をすることも防災に関して大切なことです。校門で校長先生と挨拶、朝教室で担任の先生と挨拶・・・できてます。という人は、朝出会う近所の人、登下校で見守りしてくれている安全協力員のおじさん、付き添ってくれているだれかのお父さん、お母さんにもできていますか。
みなさんの名前は知られていなくても、あそこの家には元気に挨拶してくれる小学 2 年生の男の子が住んでいる。恥ずかしそうだけど挨拶する 6 年生の女の子が近所にいる、と知ってもらうことになります。災害が起こった時に、無事かどうか心配してくれるのは家族や先生以外に、近所の大人の人々です。家の人と離れ離れになったとしても、知っている小学生なら、お父さんお母さんを一緒に探してあげるね、見つかるまで一緒に避難しておこうね、と言ってくれるはずです。
みなさんにとっても、いつも挨拶するような知っている大人がそばにいると、きっと安心できることと思います。ぼくはこの地区に住んでるよ、北陵小に通う 1 年生だよということを、挨拶することでみんなにアピールしてください。
防災について、毎日毎日考えて不安な気持ちで生活することはできませんから、避難訓練や今日の震災を伝える会の時にしっかり考え、頭の引き出しにしまっておきましょう。そして、いつでも取り出せるようにしましょう。